

平成22年度

長尾谷高等学校学校評価アンケート

調査結果報告書

平成23年2月25日（金）

学校法人 東洋学園
長尾谷高等学校

< 目 次 >

調査の概要	1
分類()「学校運営」	2
1. 「評価項目」別集計結果	
(1) 「教育課程」 「学習指導要領の対応状況」 「教育計画について」	
(2) 「教職員連携」 「教員・教科間連携状況」 「教員と事務職員の連携状況」 「会議の有効性」	
(3) 「情報公開」 「ホームページの活用状況」 「学校見学、説明会実施状況」	3
(4) 「危機管理」 「役割分担について」 「危機管理対応状況」	
(5) 「開かれた学校づくり」 地域交流について	
2. 「評価の観点」別集計結果	4
(1) 「教育課程」(2) 「教職員連携」(3) 「情報公開」(4) 「危機管理」 (5) 「開かれた学校づくり」	
分類()「教育内容」	5
1. 「評価項目」別集計結果	
(1) 「情報教育」 「情報能力育成」 「情報モラル指導」	
(2) 「人権教育・国際教育」 「研究体制」 「教育体制及び重点目標 - 1」 「教育体制及び重点目標 - 2」 「教育体制及び重点目標 - 3」 「教育体制及び重点目標 - 4」	6
(3) 「環境教育」 「環境問題意識向上」 「実践の態度の育成」	
(4) 「その他」	7
「読書推進」 「部活動」 「ボランティア」 「学校行事」 「スポーツ・芸術文化」	
2. 「評価の観点」別集計結果	8
(1) 「情報教育」(2) 「人権教育・国際教育」(3) 「環境教育」(4) 「その他」	
分類()「生徒指導・支援」	9
1. 「評価項目」別集計結果	
(1) 「生徒指導」 「指導方針の一貫性」 「生活指導について」 「家庭との連携状況」	
(2) 「生徒支援」 「学習指導について」 「カウンセリング体制」 「進路指導について」	
分類()「教員研修・資質向上」の集計結果	10
1. 「評価項目」別集計結果	
(1) 「教員研修」 「教員の資質向上について」 「校内研修」 「初任者のサポート状況」 「校外研修」 「研修成果の共有状況」	
分類()「生徒指導・支援」	11
2. 「評価の観点」別集計結果	
(1) 「生徒指導」 (2) 「生徒支援」	
分類()「生徒指導・支援」	
2. 「評価の観点」別集計結果	
(1) 「教員研修」	
平成22年度 「学校評価」調査まとめ	12
< 資料 >	
(1) 自己評価(学校運営・教育内容)アンケート用紙	(1)
(2) 自己評価(生徒指導・支援・教員研修・資質向上)アンケート用紙	(2)
(3) 学校評価アンケート集計(実数)	(3)
(4) 学校評価アンケート集計(%)	(4)
(5) 「長尾谷高等学校・学校評価」年度別(22.21.20年度)A順位表	(5)
(6) 「学校評価集計」年度別(22.21.20年度)B比較表	(6)

I 調査の概要

(1) 調査の名称

「平成22年度 長尾谷高等学校 自己評価アンケート調査」

(2) 調査方法

「質問紙法・記名式」

(3) 調査期間

「平成22年4月1日（木）～平成23年1月31日（月）」

(4) 調査対象校および回答者数

枚方校20名 京都校14名 梅田校12名 奈良校6名 ナンバ校11名
合計63名

(5) 調査項目

(i) 学校運営

- (1) 「教育課程」 ①学習指導要領の対応状況 ②教育計画について
- (2) 「教職員連携」 ①教員・教科間連携状況
②教員と事務職員の連携状況 ③会議の有効性
- (3) 「情報公開」 ①ホームページの活用状況
②学校見学、説明会実施状況
- (4) 「危機管理」 ①役割分担について ②危機管理対応状況
- (5) 「開かれた学校づくり」 ①地域交流について

(ii) 教育内容

- (1) 「情報教育」 ①情報能力育成 ②情報モラル指導
- (2) 「人権教育・国際教育」 ①研究体制 ②教育体制及び重点目標
- (3) 「環境教育」 ①環境問題意識向上 ②実践的態度の育成
- (4) 「その他」 ①読書推進 ②部活動 ③ボランティア
④学校行事 ⑤スポーツ・芸術文化

(iii) 生徒指導・支援

- (1) 「生徒指導」 ①指導方針の一貫性 ②生活指導について
③家庭との連携状況
- (2) 「生徒支援」 ①学習指導について ②カウンセリング体制
③進路指導について

(iv) 教員研修・資質向上

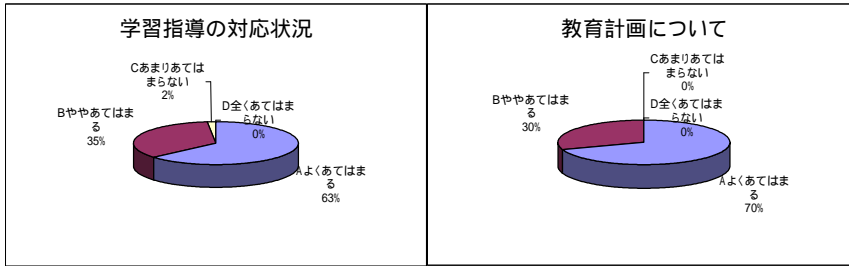
- (1) 「教員研修」 ①教員の資質向上について ②校内研修
③初任者のサポート状況 ④校外学習
⑤研修成果の共有状況

分類1「学校運営」

(1)「教育課程」

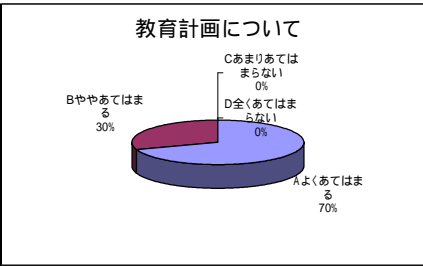
学習指導要領の対応状況

問い：「教育課程は学習指導要領に沿っている。」



教育計画について

問い：「年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。」



評価基準	
A	よくあてはまる
B	ややあてはまる
C	あまりあてはまらない
D	全くあてはまらない

全校の数値

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	40	22	1	0
%	63.5	34.9	1.6	0.0

全校の数値

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	44	19	0	0
%	69.8	30.2	0.0	0.0

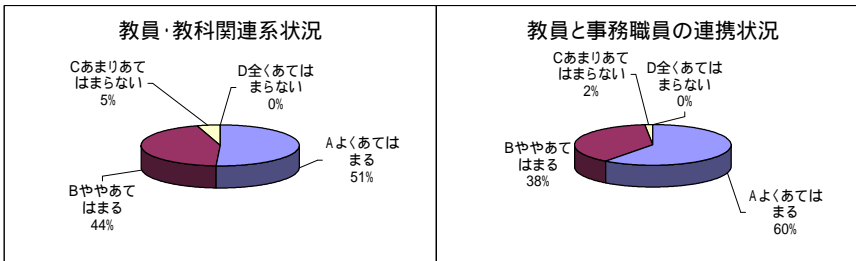
学習指導要領の対応状況：肯定的評価A・B = 93.6% 昨年度92.6% 1.0%よい評価。ほぼ全員が指導要領に沿っていると評価している。C = 6.3%とわずかに「あまりあてはまらない」との評価がある。今後も完全を目指して教科部会で検討し、改善していかなければいけない。

教育計画について：肯定的評価A・B = 98.4% 昨年度95.5% 約3.0%よい評価。なお、A = 73.0%と極めてよい評価である。本校では従来よりレポート作成、スクーリング指導に教員全員が関わり、教科指導に責任を負う体制が確立している。毎年教科会で科目のレポート問題作成者が決められる。担当者は指導計画を立て、レポート問題を作成する。生徒と授業担当者への責任が生じるため、年々精査され、よい指導計画が作成されていっている。今後も生徒の実態に合う指導と内容の充実した指導を心がけたい。

(2)「教職員連携」

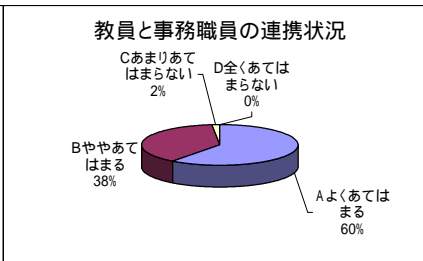
教員・教科間連携状況

問い：「教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。」



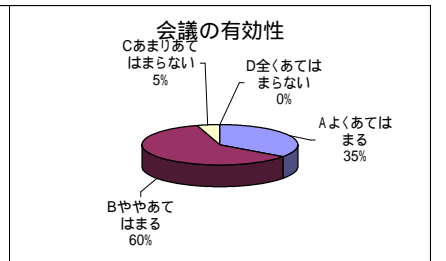
教員と事務職員の連携状況

問い：「教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携は取れている。」



会議の有効性

問い：「教職員会議を始め各種会議が有効かつ効率的に機能している。」



全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	32	28	3	0
%	50.8	44.4	4.8	0.0

全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	38	24	1	0
%	60.3	38.1	1.6	0.0

全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	22	38	3	0
%	34.9	60.3	4.8	0.0

教員・教科間連携状況：肯定的評価A・B = 95.4% 昨年度93.8% 約2.0%よい評価。5校に分かれているため、教科部会をほぼ毎月開き共通理解を図っている。また、全員がPCを持ち、常時メール交換を行って情報不足を補い、教科水準の向上と内容の点検を行っている。しかし、日常的に話し合うことが難しい。その隘路をどう埋めるか教科会でなお検討していく必要がある。

教員・事務職員の連携状況：肯定的評価A・B = 95.5% 昨年度92.7%。約3.0%よい評価。5校とも教員と事務職員が同室で執務している。両者に隔てるものではなく、意思の疎通もよい、人間関係の円滑化や情報の共有化が図られている。生徒対応も協力スムーズに行われている。ただ、C = 4.5%がある。今後もなお一層の連携に邁進したい。

会議の有効性：肯定的評価A・B = 90.9% 昨年度89.8% 約1.0%よい評価。全職員が一堂に介するという機会は年数回。毎月の運営委員会、職員会議は代表が出席し、結果を各校で報告している。また、会議記録はメールに掲載し、全教職員に周知徹底するよう図っている。ただ、A「よくあてはまる」(33.3%)よりB「ややあてはまる」(57.6%)が多いのとC「あまりあてはまらない」(9.1%)があることは今後の課題。なお一層隘路を克服する必要がある。

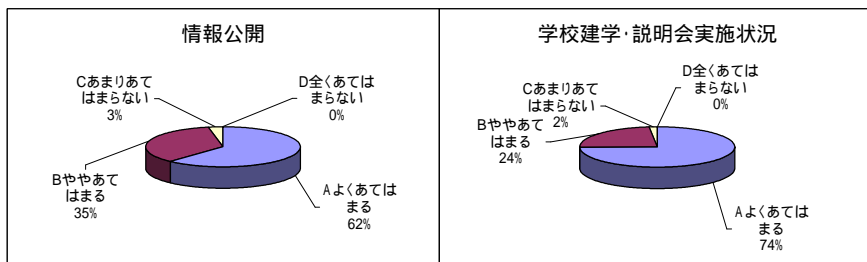
(3) 「情報公開」

ホームページの活用状況

問い：「学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。」

学校見学、説明会実施状況

問い：「学校見学、説明会等を積極的に、全員で取り組んでいる。」



評価基準	
A	よくあてはまる
B	ややあてはまる
C	あまりあてはまらない
D	全くあてはまらない

全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	39	22	2	0
%	61.9	34.9	3.2	0.0

全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	47	15	1	0
%	74.6	23.8	1.6	0.0

ホームページの活用状況：肯定的評価A・B = 98.5% 昨年度は95.7%。約3.0%よい評価。本校は開校以来積極的にインターネットを使った情報公開、情報提供を進めてきた。職員全員がPCを持ち、常時情報交換、発信できるようにしている。生徒も自由にホームページを検索し、意見を書き込みができるようにしてきた。よって、地域社会や学校関係者からも高く評価されている。否定的評価はC = 1.5% (1名)であったことについては、なお、一層の改善を図りたい。

学校見学、説明会実施状況：肯定的評価A・B = 100% 本年度新たに調査した項目である。地域社会、学校に向けて本校の状況、目指す方向等を発信しているか、全員で取り組んでいるかを問うた。全員がやっていると肯定的評価している。しかもA「よくやっている」= 71.2%ある。価値のあることである。今後も積極的に推進したい。

(4) 「危機管理」

役割分担について

問い：「事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。」

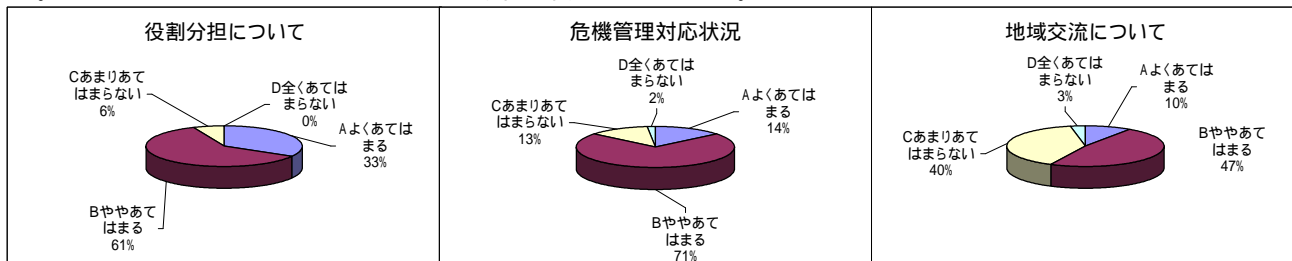
危機管理対応状況

問い：「危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。」

(5) 開かれた学校づくり

地域交流について

問い：「地域や地域住民との交流ができています。」



全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	21	38	4	0
%	33.3	60.3	6.3	0.0

全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	9	45	8	1
%	14.3	71.4	12.7	1.6

全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	6	30	25	2
%	9.5	47.6	39.7	3.2

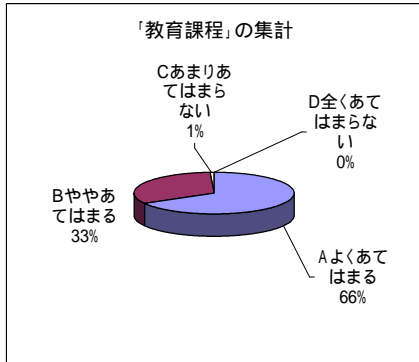
役割分担について：肯定的評価A・B = 93.9% 昨年度76.0%。約18%よい評価。5校に分かれており、置かれている環境が違う。危機管理に対する対応も少し違ってくる。田園、旧住宅地にある枚方校、市街地、商業地にある京都校・ナンバ校、市街地の外れ、オフィス・住宅地にある梅田校・奈良校では地域の様子も違う。起こりうる事故や事件、災害も異なると考えられる。地域の状況に合わせて対応策が考えられ、役割を決めている。昨年度より約18%よい評価は、危機管理体制がより整備されてきたことになる。

危機管理状況：肯定的評価A・B = 80.3% 昨年度62.3%、3分の2に達していなかった。約17%よい評価。危機管理体制がより整備されてきたことになる。本校の5校は、規模、生徒数、職員数、置かれている環境も違う。曜日ごとの生徒出席状況も違う。よって対応も違ってくる。ひとつのマニュアルではいけないところがある。しかし、今後も、各条件を超えて完全な安全対策を設定し対応策をとれるように努めなければいけない課題である。

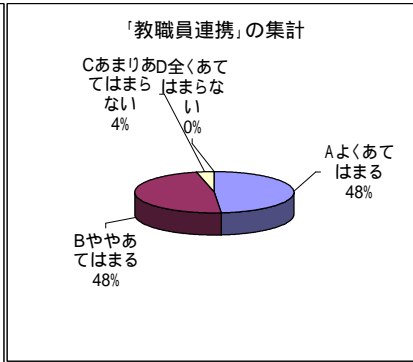
地域交流について：肯定的評価A・B = 69.7% 昨年度59.4%。約10%よい評価。少し改善されたが、次は、80%台に挙げる努力をしなければいけない。まだまだ向上の余地はある。それぞれの学校で地域に溶け込むよう努めているが、5校は、置かれている環境が違い、地域との係わり合いが異なる。また生徒が毎日安定的に来るシステムでないため状況が把握できない上に、共通の話題、行事が見つかりにくいなど隘路があるが、今後地域交流を求めて努力していきたい。

分類1「学校運営」の集計結果

(1)「教育課程」の集計結果



(2)「教職員連携」の集計結果



評価基準	
A	よくあてはまる
B	ややあてはまる
C	あまりあてはまらない
D	全くあてはまらない

(1)「教育課程」の集計結果

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	84	41	1	0
%	66.7	32.5	0.8	0.0

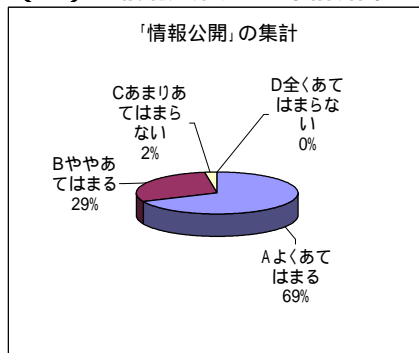
(2)「教職員連携」の集計結果

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	92	90	7	0
%	48.7	47.6	3.7	0.0

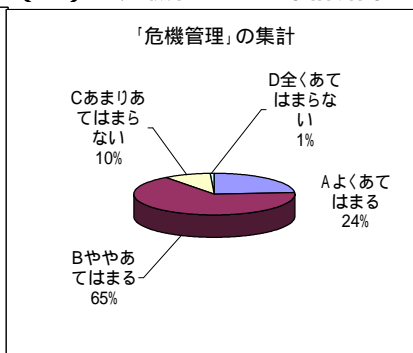
(1)教育課程の集計結果：肯定的評価A・B = 96.1% 昨年度94.0%、約2.1%よい評価。「学習指導要領への対応」「教育計画設定」の集計であるが、ほぼ全員がよい評価をしている。しかし、C+D = 4.0%がある。できていない部分があると見ていることは改善していかなければいけない。教科会が毎月持たれているので各教科で検討し、限りなく0%になる努力を続けたい。

(2)教職員連携の集計結果：肯定的評価A・B = 93.9% 昨年度92.1%、1.8%よい評価。「教員間の相互理解」「教職員間の連携」「会議の有効性」の集計であるが、よい評価である。なお、C = 6.1%がある。どんな部門、場面で「あまりあてはまらない」としているのか、ここでは具体的につかめない。しかし、あらゆる場において目配り、心配りをし、改善していかなければいけない。教科会が毎月持たれているのでそれぞれの教科でも意見を出し合い、検討していきたい。

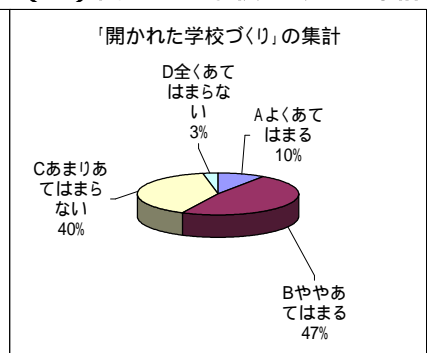
(3)「情報公開」の集計結果



(4)「危機管理」の集計結果



(5)開かれた学校づくりの集計結果



(3)「情報公開」

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	86	37	3	0
%	68.3	29.4	2.4	0.0

(4)「危機管理」

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	30	83	12	1
%	23.8	65.9	9.5	0.8

(5)開かれた学校づくり

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	6	30	25	2
%	9.5	47.6	39.7	3.2

(3)「情報公開」の集計結果：肯定的評価A・B = 99.2% 昨年度は64.9%、約35%よい評価。「ホームページで情報公開」「学校見学、説明会」の集計であるが、A = 69.7%と約7割の者が積極的の高い評価をしていることは特筆すべきことである。本校が開校以来積極的に進めてきたインターネットを使った情報公開や地域社会、学校関係者に関わってきた見学会、説明会が高く評価されている。教職員もそれを認知している証左である。今後もこの姿勢を続けていくことが信頼につながることである。

(4)「危機管理」の集計結果：肯定的評価A・B = 87.1% 昨年度69.5%、約19%よい評価。「危機に対する役割分担」「危機管理対応」についての集計であるが9割を少し切り、A = 30.3%、B = 56.8%とBの消極的評価が上回っている。今までに大きな危機的状況、事件に遭遇してこなかったが、今後に向けて積極的に対応を考えていかなければいけない課題である。一層の改善の余地がある。

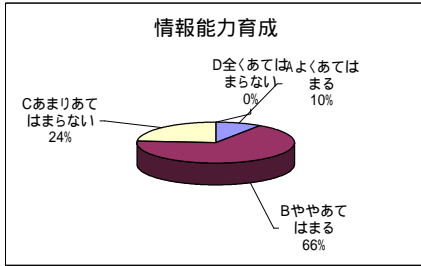
(5)「開かれた学校づくり」の集計結果：肯定的評価A・B = 69.7% 昨年度59.4%、約10%よい評価。5校は、置かれている環境が違い地域との係わり合いが異なる。また生徒が毎日安定的に来るシステムでないため状況が把握できない上に、地域と共通の話題、行事が見つけ難いなど隘路があるが、ほぼ7割が地域や地域住民との交流ができていると評価しているのはよしとしたい。次は、80%台に挙げる努力をしなければいけない。それぞれの学校で地域に溶け込むよう努め、交流を求めていきたい。

分類2 「教育内容・教育の課題」

(1) 「情報教育」

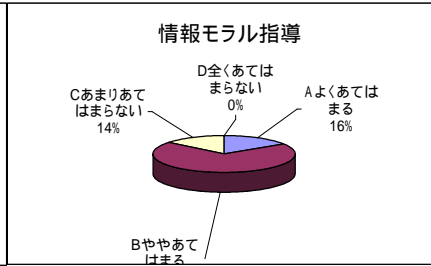
情報能力育成

問い：「総合的にIT活用能力を磨き、様々な問題に対するアプローチの幅を広げる指導ができています。」



情報モラル指導

問い：「情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。」



評価基準	
A	よくあてはまる
B	ややあてはまる
C	あまりあてはまらない
D	全くあてはまらない

全校の数値

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	6	42	15	0
%	9.5	66.7	23.8	0.0

全校の数値

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	10	44	9	0
%	15.9	69.8	14.3	0.0

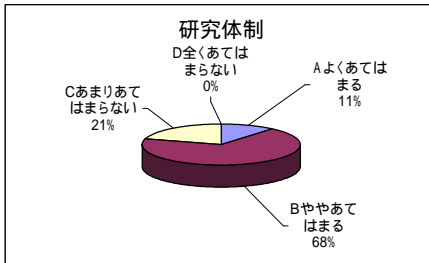
情報能力育成:肯定的評価A・B = 90.9% 昨年度92.6%。通信制では生徒は毎日学校に来ない。情報処理能力を高め、自学自習の力を付ける必要がある。本校では開校以来力を入れてきた指導であり、目的に合った教育がなされていると評価できる。ただ、昨年度より約2%評価が落ちている。C「あまりあてはまらない」=9.1%ある。0%になるようすることが課題である。

情報モラルの指導:肯定的評価A・B = 86.3% 昨年度63.2%。約20%よい評価。IC教育の光と影が問題になる今日であるが、大きく評価が上がったことはよいことである。通信制では情報処理能力とモラルを高める教育は表裏一体のものである。今後、評価を高めることと、C = 13.6%を0%になるようすることが課題である。

(2) 「人権教育・国際教育」

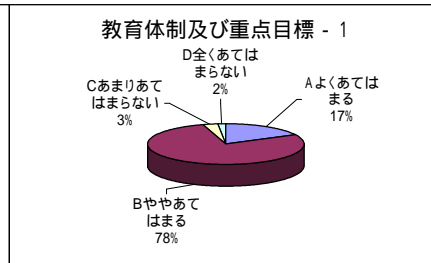
研究体制

問い：「人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。」



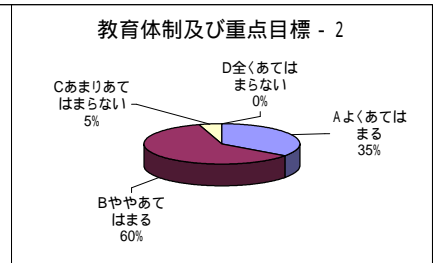
教育体制及び重点目標 - 1

問1：「知性と感性の調和のとれた人間性を養い、思考力・判断力・表現力を培う指導を行っている。」



教育体制及び重点目標 - 2

問2：「常に自分を律し、自主性をもって行動し、社会人として自立できる力を養う指導を行っている。」



全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	7	43	13	0
%	11.1	68.3	20.6	0.0

全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	11	49	2	1
%	17.5	77.8	3.2	1.6

全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	22	38	3	0
%	34.9	60.3	4.8	0.0

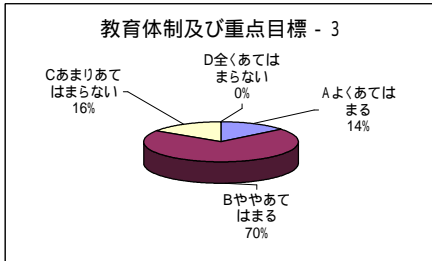
研究体制:肯定的評価A・B = 68.2% 昨年度67.2%。約1%よい評価。しかし、C = 31.8%と3分の1近くの否定的評価がある。0%になるようすることが課題である。他の項目では90%前後の高い評価が多いなか、約7割であることは今後の課題である。もっと人権教育に関わる内容を研究する体制を構築しなければいけない。ただ、次の重点目標は人権教育に関わる項目である。よい評価がでている。生徒への指導体制は整いつつある。

教育体制及び重点目標-1:肯定的評価A・B = 93.9% 本年度新たに入れた項目であるが、よい評価がでている。しかしA = 24.2%で、B = 69.7%と消極的肯定が3倍近い。もっと積極的肯定を高めなければいけない。またC = 6.1%とわずかが否定的評価がある。0%になるようすることが課題である。

教育体制及び重点目標-2:肯定的評価A・B = 85.4% 本年度新たに入れた項目である。よい評価がでている。生徒は履修科目もスクーリング出席日も自由に決められるシステムになっている。レポート提出も決められた日までに自由に提出できる。自主性をもって自立的生活ができることが大切である。B = 60.6%とA = 34.8%の2倍近くあり、消極的肯定になっている。また、C = 4.5%とわずかが否定的評価がある。0%になるようすることが課題である。

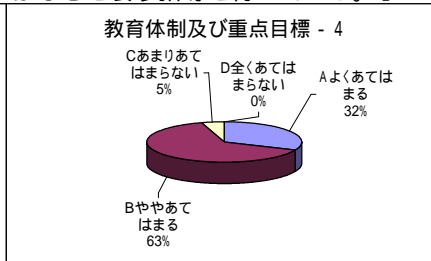
教育体制及び重点目標 - 3

問3：「国際的視野に立ち、自他を敬愛する精神を育成している。」



教育体制及び重点目標 - 4

問4：「マナーを守り、品位ある言動に努め、他者への思いやりのある豊かな心を養う指導を行っている。」



評価基準	
A	よくあてはまる
B	ややあてはまる
C	あまりあてはまらない
D	全くあてはまらない

全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	9	44	10	0
%	14.3	69.8	15.9	0.0

全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	20	40	3	0
%	31.7	63.5	4.8	0.0

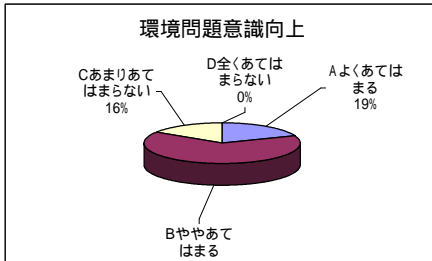
教育体制及び重点目標-3:肯定的評価A・B = 85.4% 本年度新たに入れた項目である。よい評価がでている。しかし、B = 60.6%とA = 34.8%の2倍近くあり、消極的肯定になっている。開校以来国際的視野に立った教育を重視し、海外語学スクーリングを積極的に推進してきた。毎年、10数名の生徒が1ヶ月以上の留学をしている。わずかであるが、外国籍の生徒も学習している。しかし、全体の生徒にまで浸透していない面もある。今後国際的視野に立った教育や生徒交換など交流することが課題である。

教育体制及び重点目標-4:肯定的評価A・B = 89.4% 本年度新たに入れた項目である。よい評価がでている。本校ではスクーリング時、学校行事時にも徒が安心して出席、参加できている。落ち着いた安定した状況が保たれ、不登校生徒や不安を感じて入学した生徒が安心して出席している。ただB = 51.5%がA = 37.9%より約15%多く、消極的肯定になっている。また、C = 10.6%と否定的評価がある。全体の生徒がなお一層安心して心癒されて勉学に励める学校になるよう教職員全体で取り組まなければならない課題である。

(3)「環境教育」

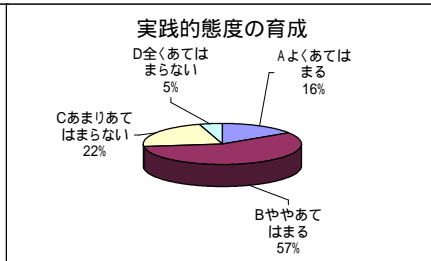
環境問題意識向上

問1：「ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育を行っている。」



実践的態度の育成

問1：「生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にする心を育成している。」



評価基準	
A	よくあてはまる
B	ややあてはまる
C	あまりあてはまらない
D	全くあてはまらない

全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	12	41	10	0
%	19.0	65.1	15.9	0.0

全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	10	36	14	3
%	15.9	57.1	22.2	4.8

環境問題意識向上:肯定的評価A+B = 69.7% 昨年度50.7%。19%よい評価。C・D = 30%。3分の1ができていないとの評価。約7割が「ゴミ等身近なことから環境教育を行っている」と評価している。国語表現の課題作文や社会科の公民科、保健体育科、家庭科など多くの教科・科目でこの地球環境を守る問題を課題にし、指導している。ただ、生徒が登校するのは不特定日、不特定の時間であるため、一斉指導することが困難な学校体制にある。今後もあらゆる機会を捉えて教職員全体で取り組まなければならない課題である。

実践的態度の育成:肯定的評価A・B = 58.5% 昨年度56.5%。2%よい評価。しかし、C・D = 41.5%できていないとの評価。約6割が「生徒に校内美化等施設・設備を大切にする教育を行っている」と評価している。自分が使った場所は自分で清掃する。全日制では当然のことであるが、不特定日、不特定の時間にしか登校、使用しない本校では一斉清掃ができない。自分たちが使ったところを他の人が清掃してくれているのだということを教え、汚さない、ゴミを棄てない指導を行っている。今後も教職員全体で取り組まなければならない課題である。

(4) 「その他」

読書推進

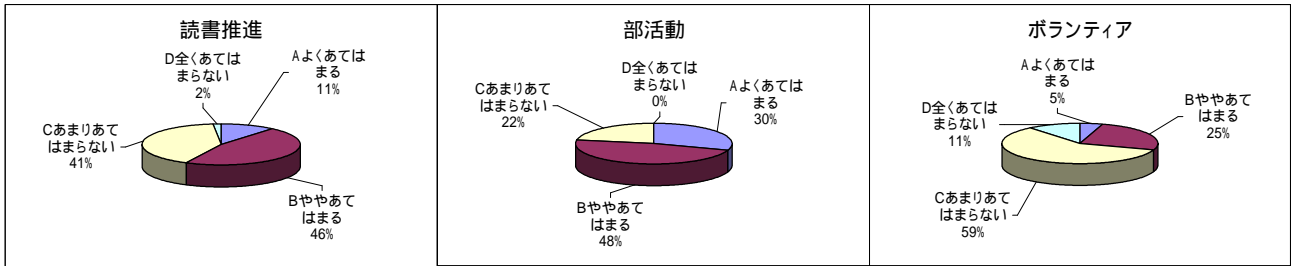
問い：「図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。」

部活動

問い：「部活動は活発である。」

ボランティア

問い：「ボランティア活動は活発である。」



全校の集計					全校の集計					全校の集計				
	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない		Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない		Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	7	29	26	1	実数	19	30	14	0	実数	3	16	37	7
%	11.1	46.0	41.3	1.6	%	30.2	47.6	22.2	0.0	%	4.8	25.4	58.7	11.1

読書推進: 肯定的評価A・B = 56.0% 昨年度63.2%。6%悪い評価。ほとんどが昨年度よりよい評価がある中、残念な結果である。約6割が「図書館利用の促進など読書指導をしている」と評価。本を読むということは通信制の教育では必然的要件である。家庭や図書館で本を読み、資料を調べて課題を解いていく。その過程・プロセスで学ぶ力がつくのである。図書館を整備し、誰でもが何時でも利用し易いように準備しておくことが通信制教育の根幹に関わる重要な要素である。また授業中、相談時などあらゆる場を使って、読書の重要性を語り、取り組まなければならない課題である。

部活動: 肯定的評価A・B = 80.3% 昨年度75.0%。約5%よい評価。開校以来、部活動に力を注いできた。全国大会に出場するクラブも多く、毎年、優勝・入賞する部がある。その実績は社会的にも高く評価されている。高い進学率とともに本校の名を社会に認知されている証左になっている。なお、一層の努力を注ぎたい課題である。

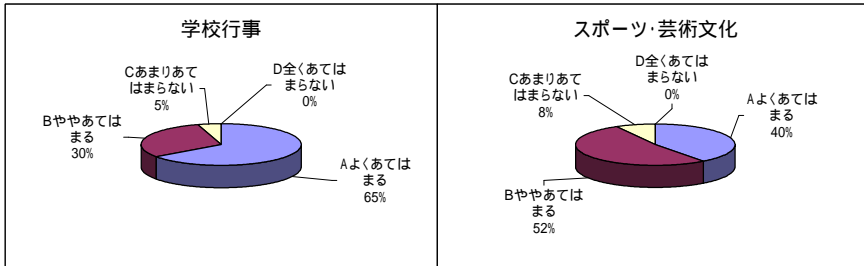
ボランティア活動: 肯定的評価A・B = 24.2% 昨年度22.4%。約2%よい評価。ただし、35項目中最も低い評価である。京都校では毎年祇園祭に地域の人と一緒に祭りの準備や裏方の仕事にボランティアとして参加している。また、長尾谷フェスティバルに各校より有志が運営委員として参加している。しかし、全体の関心は低く、積極的に参加するまでになっていない。今後啓発指導とともに多くの場を設けるようにすることが大切である。一層の努力を注ぎたい課題である。

学校行事

問い：「特別活動などの学校行事は活発である。」

スポーツ・芸術文化

問い：「スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。」



評価基準	
A	よくあてはまる
B	ややあてはまる
C	あまりあてはまらない
D	全くあてはまらない

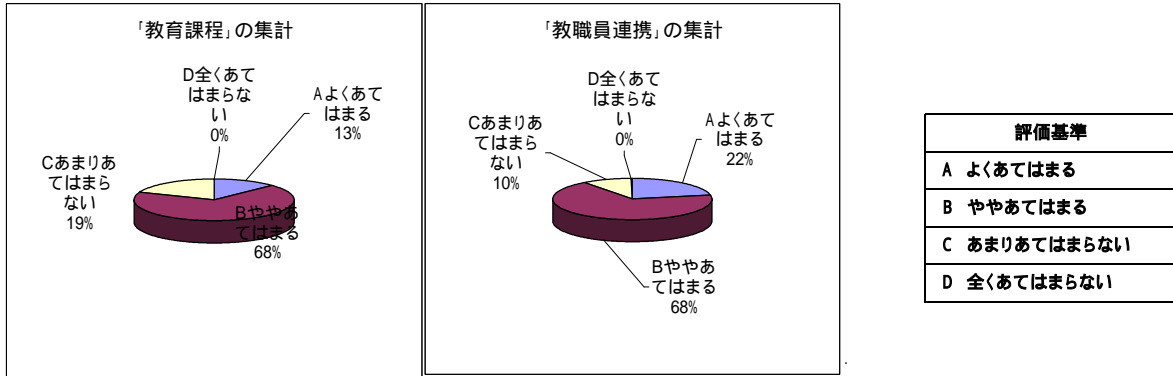
全校の集計					全校の集計				
	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない		Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	41	19	3	0	実数	25	33	5	0
%	65.1	30.2	4.8	0.0	%	39.7	52.4	7.9	0.0

学校行事: 肯定的評価A・B = 96.9% 昨年度95.6%。1.3%よい評価。部活動で見たように通信制高等学校の中では1、2番になる活動をやっている。全国大会で優勝、入賞する部も毎年ある。学校の名前を高くしている。教職員も積極的に指導に当たっている成果である。大いに評価したい。一層の努力を注ぎたい。

学校行事: A+B = 93.9% が「特別活動など学校行事が活発である」と評価している。昨年度は83.6%であった。10.3%よいとの評価が出ている。部活動で見たように生徒は通信制の中でも1、2番になる活発な活動をやっている。その基になっているのが特別活動と総合学習の多さである。多様、多彩な生徒がくる学校として活動し、経験できるようになっていることは特筆すべきことである。今後ももっと多くの生徒が参加できるように工夫することが大切である。一層の努力を注ぎたい課題である。

分類2 「教育内容・教育の課題」の集計結果

(1) 「情報教育」の集計結果 (2) 「人権教育・国際教育」の集計



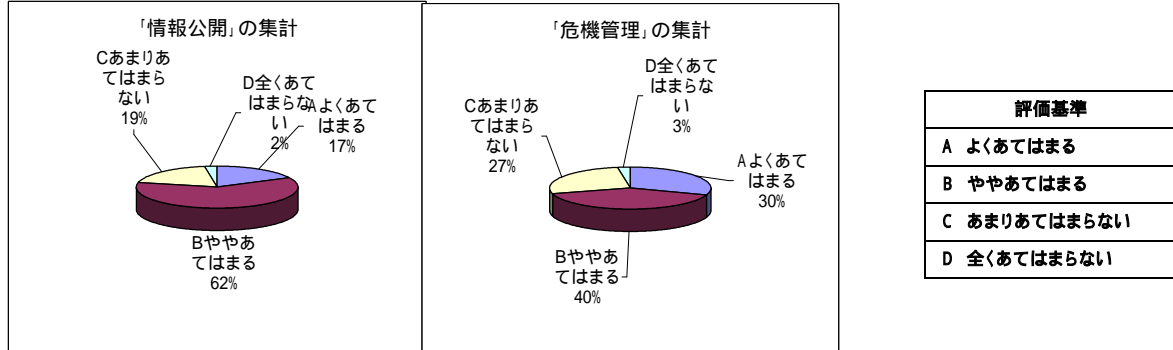
(1) 「情報教育」の集計結果 (2) 「人権教育・国際教育」の集計結果

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない		Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	16	86	24	0	実数	69	214	31	1
%	12.7	68.3	19.0	0.0	%	21.9	67.9	9.8	0.3

(1) 「情報教育」の集計結果: 肯定的評価A・B = 88.6% 昨年度77.9%。約11%よい評価。ほぼ9割が「情報教育の活用とモラル指導」ができていると評価している。学校以外の地、家庭や社会で学習することの比重の高い通信制では、情報処理能力を高めて自学自習の力を付けることとモラルの確立が重要である。本校では開校以来力を入れてきた指導である。目的に合った教育がなされていると評価できる。ただ、C = 11.4%ある。限りなく0%になるようすることが課題である。

(2) 「人権教育」の集計結果: 肯定的評価A・B = 85.5% 昨年度62.1%。約23%よい評価。ほぼ8割5分が人権教育の体制があると評価している。本校に学ぶ生徒は年齢、状況、目的など一人ひとり違う。一律には語れない。多種多様、違いがあるところを認め合うことが原点である。全体を集めての一斉指導が容易でないが、全教職員が関心を持ち、教科指導、特別活動、総合学習の場で推進してきた。なお、完全でない、C = 14.5%の否定的評価があることをふまえ、0%になるようすることが課題である。

(3) 「環境教育」の集計結果 (4) 「その他」の集計結果



(3) 「環境教育」 (4) 「その他」

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない		Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	22	77	24	3	実数	95	127	85	8
%	17.5	61.1	19.0	2.4	%	30.2	40.3	27.0	2.5

(3) 「環境教育」の集計結果: 肯定的評価A・B = 64.1% 昨年度58.1%。6%よい評価。約6割4分が「環境教育を行っている」と評価している。しかし、C・D = 35%。3分の1ができていると評価している。国語表現の作文や社会科の公民科、保健体育科、家庭科など多くの教科・科目で地球環境を守る問題を課題として指導しているが、生徒が登校するのは不特定日、不特定の時間であるため、全体に対して一斉指導することが困難な学校体制にある。しかし、今後もあらゆる機会を捉えて教職員全体で取り組まなければならない課題である。

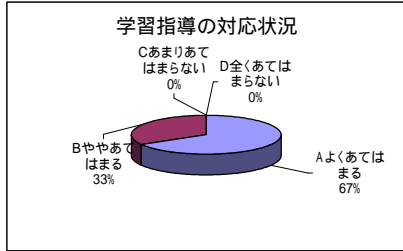
(4) 「その他」の集計結果: 肯定的評価A・B = 70.3% 昨年度70.9%。0.7%悪い評価。「読書推進」「部活動」「ボランティア」「学校行事」「スポーツ・芸術活動」を集計したものである。「部活動」「学校行事」「スポーツ・芸術活動」は80.3%、96.9%93.9%と極めて高い評価であるが、「読書推進」「ボランティア」は56%、24.4%と低い評価である。生徒に密着して継続的に指導しえない通信制の持つ弱点を現している。今後各校でも図書室を整備し、読書の大切さを啓発していくことが大切である。また、ボランティア活動を求める生徒を育成し、指導とともに多くの場を設けるようにすることが大切である。

分類3 「生徒指導・支援」

(1) 「生徒指導」

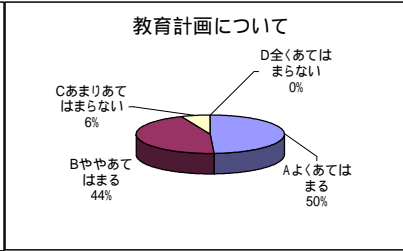
指導方針の一貫性

問い：「生徒指導は学校の方針に従っている。」



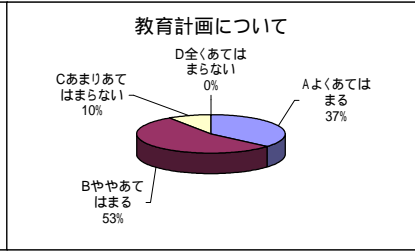
生活指導について

問い：「生徒の生活指導に組織的に対応する体制がある。」



家庭との連携状況

問い：「生徒指導において、家庭との連携ができています。」



全校の数値				全校の数値				全校の数値						
	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない		Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない		Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	42	21	0	0	実数	31	28	4	0	実数	23	34	6	0
%	66.7	33.3	0.0	0.0	%	49.2	44.4	6.3	0.0	%	36.5	54.0	9.5	0.0

指導方針の一貫性：A+B = 98.4% ほぼ全員が学校の方針に従っていると評価している。昨年度は100%であったので、C = 1.5% (1人) 悪い評価になっている。具体的に何が従っていないのか、このアンケートだけでは分からない。わずか1人であるが、学校方針に沿っていない部分があると見る人がいるならば改善していかなければいけない。教職員間の意志の疎通を図り改善に取り組んでいく必要がある。

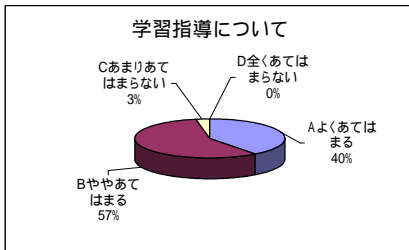
生活指導について：A+B = 95.5% ほぼ全員が生活指導に組織的に対応する体制があると評価している。昨年度は88.2%であったので、約7%よい評価になっている。C = 4.5% (3人) 否定的評価になっている。各校非常勤講師が多く、毎年少しずつ入れ替わっている。年に2回学期初めに講師会を開き、学校の教育方針課題を協議して指導体制の統一を図っているが、日常的にもなお、共通理解を進め組織的の力を高める取り組みが必要である。

家庭との連携状況：A+B = 90.9% ほぼ全員が生活指導について家庭との連携ができていますと評価している。昨年度は82.4%であったので、約8.5%よい評価になっている。通信制であるので、生徒は毎日登校しない。学校からの縛りが少なく、生徒はその分気が楽であるが、指導上の漏れがないように気をつけなければいけない。毎月の連絡便とチューターより保護者への連絡を密にし、状況把握と指導の徹底を期さなければいけない。一層の取り組みが必要である。

(2) 「生徒支援」

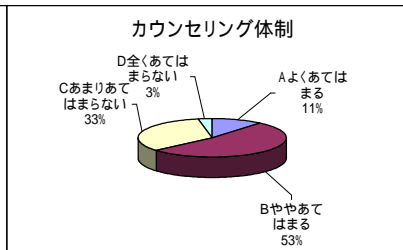
学習指導について

問い：「学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。」



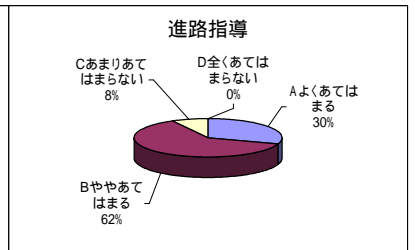
カウンセリング体制

問い：「カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。」



進路指導

問い：「生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある。」



全校の集計				全校の集計				全校の集計						
	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない		Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない		Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	25	36	2	0	実数	7	33	21	2	実数	19	39	5	0
%	39.7	57.1	3.2	0.0	%	11.1	52.4	33.3	3.2	%	30.2	61.9	7.9	0.0

学習指導について：肯定的評価A・B = 97.0% 昨年度92.5%。4.5%よい評価。ほぼ全員が生徒の実態に合わせて指導方法の改善を行っている」と評価している。本校には多様な年齢、状況、学力の生徒が在学している。一律に枠にはめられない難しさがある。各教科で部会を持ち、常に、全体指導と個々の生徒の指導方法の整合性、レポートとスクーリングの内容の整合性を協議している。約80%の卒業率と高い進学率を誇っている。この高い評価に裏打ちされているものと考えられる。しかし、なお一層、生徒の実態にあったものになるべく、改善に取り組んでいく必要がある。

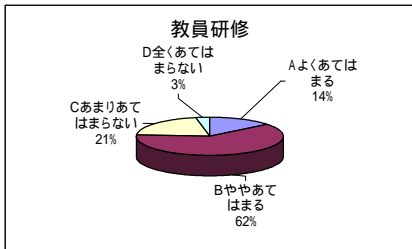
カウンセリング体制：肯定的評価A・B = 50.7% 昨年度49.3%。1.4%よい評価。ほぼ半分が「カウンセリングマインドを取り入れた支援体制ができています」と評価しているが、A = 6.3%、B = 44.4%と消極的肯定の方が多い。本校には多様な状況の生徒が在学している。相談に見える生徒にはチューターやベテランの先生が対応しているが、スクールカウンセラーなど専門の臨床心理士は常駐していない。支援体制ができています」と言いがたい。なお一層生徒の実態にあったものになるべく、改善に取り組んでいく必要がある。

進路指導について：肯定的評価A・B = 92.2% 昨年度89.6%。約3%よい評価。ほぼ9割が「生徒の状況に合わせた支援体制がある」と評価している。5校に分かれているため情報の一元化が難しい面がある。しかし、進路指導部が中心になり、情報の共有と共通認識を図り、各指導者が混乱しないように取り組んでいる。各校進路指導担当、チューターが三者懇談会を行い指導にあたっている。多様な年齢、状況、学力の生徒が在学しており、一律に枠にはめられない難しさがあるが、概ね希望どおりの進路が決められている。なお、C = 7.8%あるので、生徒の実態にあったものになるべく、改善に取り組んでいく必要がある。

分類4 「教員研修・資質向上」

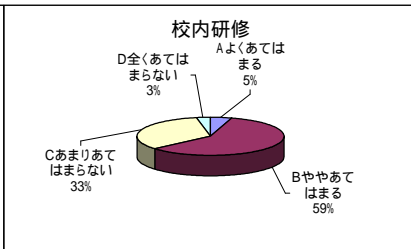
教員の資質向上について

問い： 「教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。」



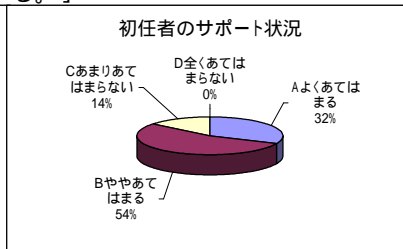
校内研修

問い： 「効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。」



初任者のサポート状況

問い： 「初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。」



全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	9	39	13	2
%	14.3	61.9	20.6	3.2

全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	3	37	21	2
%	4.8	58.7	33.3	3.2

全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	20	34	9	0
%	31.7	54.0	14.3	0.0

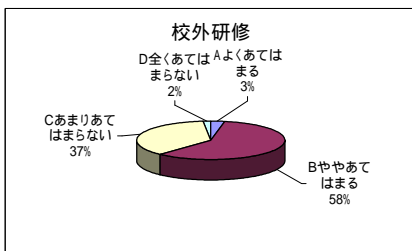
教員の資質向上について: 肯定的評価A・B = 49.2% 昨年度61.8%, 12.6%悪い評価。A = 9.2%, B = 40.0%, C・D = 50.8%。ほぼ5割が「教育間で授業内容を評価、意見交換などの機会がある」と評価しているが、半分しか評価されていないことは問題である。担当者は5校に分かれており、非常勤講師も多いのでそばにおいて常時話し合うということができない。教科会が年間何度が持たれているが、協議・連絡に時間を費やされて授業内容に亘って意見交換をするということまで至っていない。なお、一層の改善に取り組んでいく必要がある。

校内研修: 肯定的評価A・B = 65.1% 昨年度58.3%, 6.8%よい評価。ほぼ6割5分が「校内研修計画を立案し、実施している」と評価している。しかし、C = 31.8%ある。本年度、全国の放送教育の研究指定校になり、5校全体で研究・研修する体制を作った。また、夏期休暇中に東洋学園全体の研修会を設け、教職員の共通理解を図る取り組みをしているが、8割、9割に高める取り組みが必要である。非常勤講師も多く常時、授業内容に亘って意見交換をするということまで至っていない。なお、一層の改善に取り組む必要がある。

初任者のサポート状況: 肯定的評価A・B = 83.3% 昨年度76.1%, 7.2%よい評価。8割3分が「初任者等へのサポート体制がある」と評価している。しかし、C = 16.7%ある。本校では毎年人事異動により複数名の新任教職員が入ってくる。また、非常勤講師も多く入れ替わる。そのため、年度初めの職員会議や講師会、教科部会等を通じて初任者の支援体制をしいている。概ね順調にサポート体制はできていると評価できる。非常勤講師も多く常時、授業内容に亘って意見交換をするということまで至っていない。なお、一層の改善に取り組む、9割に高める取り組みが必要である。

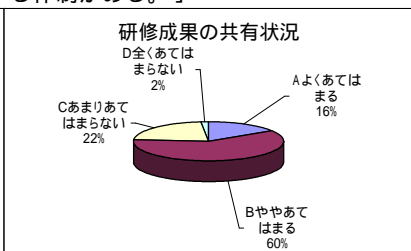
校外研修

問い： 「教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。」



研修成果の共有状況

問い： 「研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。」



評価基準	
A	よくあてはまる
B	ややあてはまる
C	あまりあてはまらない
D	全くあてはまらない

全校の集計

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	2	37	23	1
%	3.2	58.7	36.5	1.6

全校の集計

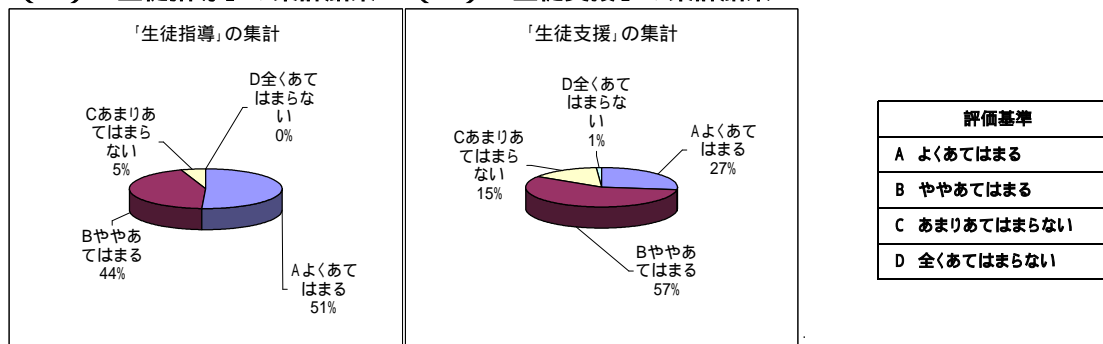
	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	10	38	14	1
%	15.9	60.3	22.2	1.6

校外研修: 肯定的評価A・B = 57.6% 昨年度61.2%, 3.6%悪い評価。ほぼ6割が「校外研修を受ける体制が整っている」と評価しているが、C = 39.4%ある。本年度放送教育の研究指定校になり5校全体で研究・研修する体制を取り組み出したが、学外である研修会や研究会に行けていない。時間的な余裕が十分整っているとは言いがたい。なお、一層の改善に取り組んでいく必要がある。

研修成果の共有状況: A+B = 65.2% ほぼ6割5分が「情報を共有する体制が整っている」と評価している。昨年度は73.1%であったので、7.9%悪い評価になっている。C = 31.8%ある。5校に分かれているため情報伝達がスムーズに行かない場面もある。教科部会や各校チューター間で連絡・打合せ・協議を進めている。しかし、全体での取り組み体制が、十分整っているとは言いがたい。なお、一層の改善に取り組んでいく必要がある。

分類3 「生徒指導・支援」の集計結果

(1) 「生徒指導」の集計結果 (2) 「生徒支援」の集計結果



(1) 「生徒指導」の集計結果 (2) 「生徒支援」の集計結果

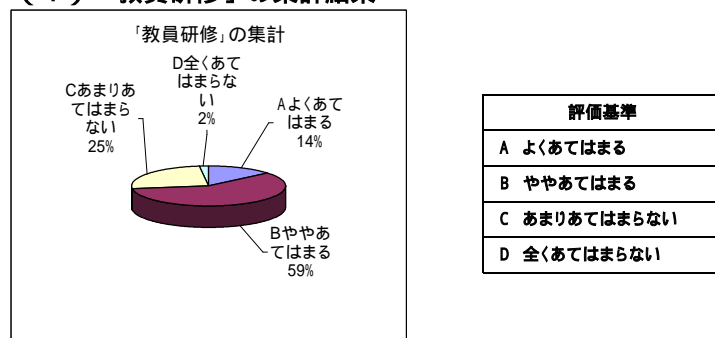
	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない		Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	96	83	10	0	実数	51	108	28	2
%	50.8	43.9	5.3	0.0	%	27.0	57.1	14.8	1.1

(1)「生徒指導」の集計結果:肯定的評価A・B = 95.0% 昨年度90.2%, 5%よい評価。「生徒指導の一貫性」「生活指導の組織的対応」「家庭との連携」の集計であるが、ほぼ全員ができていると評価している。5校ともにスクーリング授業や学校行事が落ち着いて効率的に実施されている。生徒も安心して学習している。この一年大きな問題も起こっていない。学校と家庭が連携し、生活指導がスムーズに行われている。しかし、C = 5.1%があることも確かである。なお、教職員間の意志の疎通を図り改善に取り組んでいく必要がある。

(2)「生徒支援」の集計結果:肯定的評価A・B = 80.3% 昨年度77.4%, 約3%よい評価。「学校指導の改善」「カウンセリングの支援体制」「進路指導の支援体制」の集計であるが、約8割ができていると評価している。内、B = 50.8%であるので半数の者が「ややあてはまる」と消極的肯定であることを認識しなければならない。特に、「カウンセリング体制」が約50%しかなく、不十分である。課題を多く持つ生徒が多数いることを踏まえ、学校と家庭が連携し、今後一層の指導体制を整備しなければならない。

分類() 「教員研修・資質向上」の集計結果

(1) 「教員研修」の集計結果



(1) 「教員研修」の集計結果

	Aよくあてはまる	Bややあてはまる	Cあまりあてはまらない	D全くあてはまらない
実数	44	185	80	6
%	14.0	58.7	25.4	1.9

(1)教員研修の集計結果:肯定的評価A・B = 64.2% 昨年度73.1%, 7.9%悪い評価。ほぼ6割4分が「情報を共有する体制が整っている。」と評価している。しかし、C = 31.8%ある。5校に分かれているため情報伝達がスムーズに行かないことも起こる。教科部会や各校チューター間で連絡・打合せ・協議を進めて修正しているが、全体での取り組み体制が十分整っているとは言いがたい。なお、一層の改善に取り組んでいく必要がある。

平成22年度「学校評価」調査まとめ

長尾谷高等学校 学校評価委員会

1. 調査項目は

平成22年度(以下H22と表記する)調査は35項目。平成21年度(以下H21と表記する)と全て同じ内容の項目である。評価基準はA B C D4段階になっているが、より傾向をつかむため肯定的評価(A B)と否定的評価(C D)に分けて考察をする。

資料参照「長尾谷高等学校・学校評価 年度別(22.21.20年度) A順位表」

「学校評価集計 年度別(22.21.20年度) B比較表」

2. H22(A B)とH21(A B)、H20(A B)の3年間比較

- ・H22の全体平均値は83.9%、3年間で一番高い評価になっているもの：18項目
H21の全体平均値は81.2%、3年間で一番高い評価になっているもの：15項目
H20の全体平均値は75.6%、3年間で一番高い評価になっているもの：3項目
- ・全体平均値はわずかずつであるが年々上昇している。3年間で一番高い評価項目も増加している。

3. H22(A B)とH21(A B)の全体比較

- ・H22は「学校運営91.9%」(H21より0.3%向上)、「教育内容・教育の課題80.1%」(2.7%向上)、「生徒指導・支援89.4%」(1.9%向上)、「教員研修・資質向上72.7%」(8.6%向上)。「全体83.9%」(2.7%向上)である。全てに前年度を上回っている。

H21より僅かに(10%以内)向上した。H20(1位3項目)よりH21(1位15項目)、H22(1位18項目)と年々評価が高くなっている。よい方向にあると言える。

4. H22(A B)とH21(A B)の項目比較

(1)H22がH21より高い評価になっているもの：19項目

19項目中3分の2(13項目)が数%以内の高さであり、大きな変化はない。次の6項目が10%を超えている。

「12 研究体制」(11.2%向上)、「18 環境問題意識向上」(14.4%向上)、「19 実践的態度の育成」(14.5%向上)、「29 カウンセリング体制」(12.8%向上)、「31 教員の資質向上」(27.0%向上)、「35 研修成果の共有状況」(11.0%向上)。

最も増えた評価は「31 教員の資質向上」である。本年度76.2%。昨年度が49.2%しかなかったもので、27.0%高くなった。しかし、特筆すべき高い値でもない。

(2)H22がH21より低い評価になっているもの：16項目

これもほとんどが0.数%(1桁)以内であり、10%を超えるものは2項目だけである。

「10 地域交流について」(12.6%低下)、「11 情報能力育成」(14.7%低下)である。後述する。

4. H22全体として

評価基準の肯定的評価(A B)が100%になっているものが2項目ある。「2 教育計画について」、「25 指導方針の一貫性」。これは本校教育の根幹をなす基本課題であり、全教職員が肯定的評価(A B)100%としていることを高く評価できる。

逆に、低い評価は「22 ボランティア30.2%」、「10 地域交流について57.1%」、「20 読書推進57.1%」の3項目である。

特に「10 地域交流について」は、肯定的評価（A B）57.1%であり、「学校運営」に属する10項目の平均値91.9%の中で最も悪い評価である。また、否定的評価（C D）が42.9%もある。ただ、「10 地域交流について」、「22 ボランティア」については、京都校で祇園祭りのときに町内の山鉾巡行に生徒が参加している。他、文化祭にあたる長尾谷フェスティバルに各校から有志の生徒が実行委員として参加している。ともに限られた一部生徒の参加であり、まだ全体の活動になってない。今後も難しい課題である。

3項目共に生徒が日常的、定期的に活動を継続することが求められるものである。しかし、毎日通学しない学校（通信制）であるためにシステムとしての機能させられない面がある。学校全体で組織的、継続的に取り組めていない課題である。

次いで、肯定的評価（A B）が80%以下のものは、「11 情報能力育成 76.2%」「13 研究体制 79.4%」「19 実践的態度の育成 73.0%」「21 部活動 77.8%」「29 カウンセリング体制 63.5%」「31 教員の資質向上 76.2%」「32 校内研修 63.5%」「34 校外研修 61.9%」「35 研修成果の共有状況 76.2%」の9項目である。

「11 情報能力育成」は昨年度より14.7%減である。昨年度90.9%、一昨年度92.6%であったので、低下率が最も大きい。情報能力育成は通信制教育には欠かせない要件である。今後とも向上させなくてはならない。

また、31,32,34,35の4つは、「教員研修・資質向上」の5項目の内の4項目である。教員の資質向上のための研究、研修が十分に行われていないことを示す。

「31 教員の資質向上について 76.2%」は、一昨年度61.8%、昨年度は49.2%であったので27%向上している。35項目中で最も向上したものであるが特筆すべき高評価ではない。

各校とも同じ教科の常勤教員が1名か2名である。非常勤教員の方が多いため、「同教科の教員同士が常時話し合い、研修し合う」ことが難しい。年間数回の教科会を持ち意見交換、協議を行っている。が、打合せ、連絡が主となり、研修に十分な時間が取れていない。

32,34,35の体制については、数年前には、夏期の1日全体研修会が持たれ、講演と教科毎の研究発表を行っていた。各教科では年度始めに研究テーマを決め、議論し、研修体制を整えてきた。現在は全体研修会がなくなり、重石が取れた気軽さがあるが、研修が軽んじられることになる。それぞれが日常的に多忙であるが、学校として研修する体制を整えておくことが大切である。

「19 実践的態度の育成 73.0%」（校内美化）については、不特定生徒が不定期に通学する通信制のシステムであるため、全日制のような清掃を生徒に課していない。しかし、どの学校も教室等生徒が使用している校内にゴミがなく、便所も清潔に使われている。来校者の批判、苦情もない。各校で使用については十分指導できている。今後とも一層指導していきたい。

「20 読書推進 57.1%」（図書館利用）は、施設・設備・蔵書等最も遅れている課題である。司書教諭がない。これも毎日生徒が通学しない学校ということで見過ごされてきた課題でもある。

「29 カウンセリング体制 63.5%」も、主として担任（チューター）が教育相談や懇談会を通じて相談、支援を行っているが、一人一人状況が違い、外部からは見えないことが多い。通信制のため生徒との日常的接触が少なく、内面的な悩みや迷いを持った生徒の把握が難しいという側面がある。

< 資 料 >

(1) 自己評価 (学校運営・教育内容) アンケート用紙	(1)
(2) 自己評価 (生徒指導・支援・教員研修・資質向上) アンケート用紙	(2)
(3) 学校評価アンケート集計 (実数)	(3)
(4) 学校評価アンケート集計 (%)	(4)
(5) 「長尾谷高等学校・学校評価」年度別 (22.21.20 年度) A 順位表	(5)
(6) 「学校評価集計」年度別 (22.21.20 年度) B 比較表	(6)

自己評価(学校運営・教育内容・教育の課題)アンケート用紙

所属校() 氏名()

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	番号	設 問	評価	
学校運営	教育課程	学習指導要領の対応状況	1	教育課程は学習指導要領に沿っている。		
		教育計画について	2	年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。		
	教職員連携	教員・教科間連携状況	3	教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。		
		教員と事務職員の連携状況	4	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携はとられている。		
		会議の有効性	5	教職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している。		
	情報公開	ホームページの活用状況	6	学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。		
		学校見学、説明会実施状況	7	学校見学、説明会等を積極的に行い、全員で取り組んでいる。		
	危機管理	役割分担について	8	事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。		
		危機管理対応状況	9	危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。		
	開かれた学校づくり	地域交流について	10	地域や地域住民との交流ができています。		
教育内容・教育の課題	情報教育	情報能力育成	11	総合的にIT活用能力を磨き、様々な問題に対するアプローチの幅を広げる指導ができています。		
		情報モラル指導	12	情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。		
	人権教育・国際教育	教育体制及び重点目標	研究体制	13	人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。	
			14	知性と感性の調和のとれた人間性を養い、思考力・判断力・表現力を培う指導を行っている。		
			15	常に自分を律し、自主性をもって行動し、社会人として自立できる力を養う指導を行っている。		
			16	国際的視野に立ち、自他を敬愛する精神を育成している。		
	環境教育	環境問題意識向上	18	ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育を行っている。		
		実践的態度の育成	19	生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。		
	その他	読書推進	20	図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。		
		部活動	21	部活動は活発である。		
		ボランティア	22	ボランティア活動は活発である。		
		学校行事	23	特別活動などの学校行事は活発である。		
		スポーツ・芸術文化	24	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。		

提出締切日：平成23年1月31日(月)

自己評価(生徒指導・支援・教員研修・資質向上)アンケート用紙

所属校() 氏名()

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	番号	設 問	評価
生徒指導・支援	生徒指導	指導方針の一貫性	25	生徒指導は学校の方針に従っている。	
		生活指導について	26	生徒の生活指導に組織的に対応する体制がある。	
		家庭との連携状況	27	生徒指導において、家庭との連携ができています。	
	生徒支援	学習指導について	28	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	
		カウンセリング体制	29	カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。	
		進路指導について	30	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある。	
教員研修・資質向上	教員研修	教員の資質向上について	31	教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。	
		校内研修	32	効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。	
		初任者のサポート状況	33	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。	
		校外研修	34	教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。	
		研修成果の共有状況	35	研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。	

提出締切日：平成23年1月31日(月)

学校評価(教員用)アンケート集計(実数)

分類	番号	評価項目	枚方校				京都校				梅田校				奈良校				ナンバ校				全合計			
			A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
学校運営	1	学習指導要領の対応状況	11	9	0	0	8	6	0	0	8	3	1	0	5	1	0	0	8	3	0	0	40	22	1	0
	2	教育計画について	15	5	0	0	8	6	0	0	9	3	0	0	5	1	0	0	7	4	0	0	44	19	0	0
	3	教員・教科間連携状況	6	13	1	0	6	6	2	0	9	3	0	0	4	2	0	0	7	4	0	0	32	28	3	0
	4	教員と事務職員の連携状況	9	11	0	0	6	7	1	0	10	2	0	0	6	0	0	0	7	4	0	0	38	24	1	0
	5	会議の有効性	5	13	2	0	2	11	1	0	8	4	0	0	2	4	0	0	5	6	0	0	22	38	3	0
	6	ホームページの活用状況	12	8	0	0	10	4	0	0	7	4	1	0	6	0	0	0	4	6	1	0	39	22	2	0
	7	学校見学・説明会実施状況	18	2	0	0	8	5	1	0	9	3	0	0	6	0	0	0	6	5	0	0	47	15	1	0
	8	役割分担について	8	10	2	0	4	8	2	0	4	8	0	0	1	5	0	0	4	7	0	0	21	38	4	0
	9	危機管理対応状況	2	15	2	1	3	8	3	0	1	10	1	0	0	6	0	0	3	6	2	0	9	45	8	1
	10	地域交流について	0	9	10	1	6	6	2	0	0	3	9	0	0	3	3	0	0	9	1	1	6	30	25	2
合計			86	95	17	2	61	67	12	0	65	43	12	0	35	22	3	0	51	54	4	1	298	281	48	3

=最高値

分類	番号	評価項目	枚方校				京都校				梅田校				奈良校				ナンバ校				全合計			
			A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
教育内容・教育の課題	11	情報能力育成	0	17	3	0	1	7	6	0	0	8	4	0	2	4	0	0	3	6	2	0	6	42	15	0
	12	情報モラル指導	1	16	3	0	5	7	2	0	0	10	2	0	2	4	0	0	2	7	2	0	10	44	9	0
	13	研究体制	1	15	4	0	4	6	4	0	1	9	2	0	0	6	0	0	1	7	3	0	7	43	13	0
	14	教育体制及び重点目標	1	18	1	0	2	10	1	1	3	9	0	0	2	4	0	0	3	8	0	0	11	49	2	1
	15		5	14	1	0	5	7	2	0	4	8	0	0	3	3	0	0	5	6	0	0	22	38	3	0
	16		1	15	4	0	2	9	3	0	3	7	2	0	1	5	0	0	2	8	1	0	9	44	10	0
	17		4	14	2	0	6	7	1	0	4	8	0	0	4	2	0	0	2	9	0	0	20	40	3	0
	18	環境問題意識向上	3	13	4	0	8	4	2	0	0	9	3	0	1	5	0	0	0	10	1	0	12	41	10	0
	19	実践的態度の育成	1	11	6	2	4	7	2	1	0	8	4	0	1	4	1	0	4	6	1	0	10	36	14	3
	20	読書推進	0	10	9	1	1	4	9	0	2	7	3	0	2	3	1	0	2	5	4	0	7	29	26	1
	21	部活動	9	8	3	0	5	5	4	0	0	9	3	0	0	3	3	0	5	5	1	0	19	30	14	0
	22	ボランティア	0	5	12	3	1	3	7	3	0	4	8	0	0	2	3	1	2	2	7	0	3	16	37	7
	23	学校行事	13	7	0	0	7	5	2	0	9	3	0	0	5	1	0	0	7	3	1	0	41	19	3	0
	24	スポーツ・芸術文化	5	12	3	0	5	7	2	0	7	5	0	0	3	3	0	0	5	6	0	0	25	33	5	0
合計			44	175	55	6	56	88	47	5	33	104	31	0	26	49	8	1	43	88	23	0	202	504	164	12

=最高値

分類	番号	評価項目	枚方校				京都校				梅田校				奈良校				ナンバ校				全合計			
			A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
生徒指導・支援	25	指導方針の一貫性	14	6	0	0	5	9	0	0	11	1	0	0	5	1	0	0	7	4	0	0	42	21	0	0
	26	生活指導について	10	8	2	0	3	9	2	0	8	4	0	0	4	2	0	0	6	5	0	0	31	28	4	0
	27	家庭との連携状況	9	8	3	0	2	10	2	0	6	6	0	0	2	4	0	0	4	6	1	0	23	34	6	0
	28	学習指導について	6	14	0	0	4	8	2	0	6	6	0	0	3	3	0	0	6	5	0	0	25	36	2	0
	29	カウンセリング体制	1	10	8	1	2	6	5	1	1	7	4	0	2	4	0	0	1	6	4	0	7	33	21	2
	30	進路指導について	7	13	0	0	3	8	3	0	1	10	1	0	4	2	0	0	4	6	1	0	19	39	5	0
合計			47	59	13	1	19	50	14	1	33	34	5	0	20	16	0	0	28	32	6	0	147	191	38	2

=最高値

分類	番号	評価項目	枚方校				京都校				梅田校				奈良校				ナンバ校				全合計			
			A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
教員研修・資質向上	31	教員の資質向上について	1	10	7	2	4	9	1	0	0	9	3	0	0	6	0	0	4	5	2	0	9	39	13	2
	32	校内研修	0	9	9	2	1	6	7	0	1	9	2	0	0	4	2	0	1	9	1	0	3	37	21	2
	33	初任者のサポート状況	3	13	4	0	3	7	4	0	5	6	1	0	2	4	0	0	7	4	0	0	20	34	9	0
	34	校外研修	0	10	9	1	0	8	6	0	1	7	4	0	0	6	0	0	1	6	4	0	2	37	23	1
	35	研修成果の共有状況	2	12	5	1	1	7	6	0	4	6	2	0	2	4	0	0	1	9	1	0	10	38	14	1
合計			6	54	34	6	9	37	24	0	11	37	12	0	4	24	2	0	14	33	8	0	44	185	80	6

=最高値

学校評価(教員用)アンケート集計(%)

分類	番号	評価項目	枚方校				京都校				梅田校				奈良校				ナンバ校				全合計			
			A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
学校運営	1	学習指導要領の対応状況	55.0	45.0	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0	66.7	25.0	8.3	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0	72.7	27.3	0.0	0.0	63.5	34.9	1.6	0.0
	2	教育計画について	75.0	25.0	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0	63.6	36.4	0.0	0.0	69.8	30.2	0.0	0.0
	3	教員・教科間連携状況	30.0	65.0	5.0	0.0	42.9	42.9	14.3	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	63.6	36.4	0.0	0.0	50.8	44.4	4.8	0.0
	4	教員と事務職員の連携状況	45.0	55.0	0.0	0.0	42.9	50.0	7.1	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	63.6	36.4	0.0	0.0	60.3	38.1	1.6	0.0
	5	会議の有効性	25.0	65.0	10.0	0.0	14.3	78.6	7.1	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	45.5	54.5	0.0	0.0	34.9	60.3	4.8	0.0
	6	ホームページの活用状況	60.0	40.0	0.0	0.0	71.4	28.6	0.0	0.0	58.3	33.3	8.3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	36.4	54.5	9.1	0.0	61.9	34.9	3.2	0.0
	7	学校見学・説明会実施状況	90.0	10.0	0.0	0.0	57.1	35.7	7.1	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	54.5	45.5	0.0	0.0	74.6	23.8	1.6	0.0
	8	役割分担について	40.0	50.0	10.0	0.0	28.6	57.1	14.3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	16.7	83.3	0.0	0.0	36.4	63.6	0.0	0.0	33.3	60.3	6.3	0.0
	9	危機管理対応状況	10.0	75.0	10.0	5.0	21.4	57.1	21.4	0.0	8.3	83.3	8.3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	27.3	54.5	18.2	0.0	14.3	71.4	12.7	1.6
	10	地域交流について	0.0	45.0	50.0	5.0	42.9	42.9	14.3	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	81.8	9.1	9.1	9.5	47.6	39.7	3.2
合計			43.0	47.5	8.5	1.0	43.6	47.9	8.6	0.0	54.2	35.8	10.0	0.0	58.3	36.7	5.0	0.0	46.4	49.1	3.6	0.9	47.3	44.6	7.6	0.5

=最高値

分類	番号	評価項目	枚方校				京都校				梅田校				奈良校				ナンバ校				全合計			
			A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
教育内容・教育の課題	11	情報能力育成	0.0	85.0	15.0	0.0	7.1	50.0	42.9	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	27.3	54.5	18.2	0.0	9.5	66.7	23.8	0.0
	12	情報モラル指導	5.0	80.0	15.0	0.0	35.7	50.0	14.3	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	18.2	63.6	18.2	0.0	15.9	69.8	14.3	0.0
	13	研究体制	5.0	75.0	20.0	0.0	28.6	42.9	28.6	0.0	8.3	75.0	16.7	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	9.1	63.6	27.3	0.0	11.1	68.3	20.6	0.0
	14	教育体制及び重点目標	5.0	90.0	5.0	0.0	14.3	71.4	7.1	7.1	25.0	75.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	27.3	72.7	0.0	0.0	17.5	77.8	3.2	1.6
	15		25.0	70.0	5.0	0.0	35.7	50.0	14.3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	45.5	54.5	0.0	0.0	34.9	60.3	4.8	0.0
	16		5.0	75.0	20.0	0.0	14.3	64.3	21.4	0.0	25.0	58.3	16.7	0.0	16.7	83.3	0.0	0.0	18.2	72.7	9.1	0.0	14.3	69.8	15.9	0.0
	17		20.0	70.0	10.0	0.0	42.9	50.0	7.1	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	18.2	81.8	0.0	0.0	31.7	63.5	4.8	0.0
	18	環境問題意識向上	15.0	65.0	20.0	0.0	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	16.7	83.3	0.0	0.0	0.0	90.9	9.1	0.0	19.0	65.1	15.9	0.0
	19	実践的態度の育成	5.0	55.0	30.0	10.0	28.6	50.0	14.3	7.1	0.0	66.7	33.3	0.0	16.7	66.7	16.7	0.0	36.4	54.5	9.1	0.0	15.9	57.1	22.2	4.8
	20	読書推進	0.0	50.0	45.0	5.0	7.1	28.6	64.3	0.0	16.7	58.3	25.0	0.0	33.3	50.0	16.7	0.0	18.2	45.5	36.4	0.0	11.1	46.0	41.3	1.6
	21	部活動	45.0	40.0	15.0	0.0	35.7	35.7	28.6	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	45.5	45.5	9.1	0.0	30.2	47.6	22.2	0.0
	22	ボランティア	0.0	25.0	60.0	15.0	7.1	21.4	50.0	21.4	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	33.3	50.0	16.7	18.2	18.2	63.6	0.0	4.8	25.4	58.7	11.1
	23	学校行事	65.0	35.0	0.0	0.0	50.0	35.7	14.3	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0	63.6	27.3	9.1	0.0	65.1	30.2	4.8	0.0
	24	スポーツ・芸術文化	25.0	60.0	15.0	0.0	35.7	50.0	14.3	0.0	58.3	41.7	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	45.5	54.5	0.0	0.0	39.7	52.4	7.9	0.0
合計			15.7	62.5	19.6	2.1	28.6	44.9	24.0	2.6	19.6	61.9	18.5	0.0	31.0	58.3	9.5	1.2	27.9	57.1	14.9	0.0	22.9	57.1	18.6	1.4

=最高値

分類	番号	評価項目	枚方校				京都校				梅田校				奈良校				ナンバ校				全合計			
			A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
生徒指導・支援	25	指導方針の一貫性	70.0	30.0	0.0	0.0	35.7	64.3	0.0	0.0	91.7	8.3	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0	63.6	36.4	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	26	生活指導について	50.0	40.0	10.0	0.0	21.4	64.3	14.3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	54.5	45.5	0.0	0.0	49.2	44.4	6.3	0.0
	27	家庭との連携状況	45.0	40.0	15.0	0.0	14.3	71.4	14.3	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	36.4	54.5	9.1	0.0	36.5	54.0	9.5	0.0
	28	学習指導について	30.0	70.0	0.0	0.0	28.6	57.1	14.3	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	54.5	45.5	0.0	0.0	39.7	57.1	3.2	0.0
	29	カウンセリング体制	5.0	50.0	40.0	5.0	14.3	42.9	35.7	7.1	8.3	58.3	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	9.1	54.5	36.4	0.0	11.1	52.4	33.3	3.2
	30	進路指導について	35.0	65.0	0.0	0.0	21.4	57.1	21.4	0.0	8.3	83.3	8.3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	36.4	54.5	9.1	0.0	30.2	61.9	7.9	0.0
合計			39.2	49.2	10.8	0.8	22.6	59.5	16.7	1.2	45.8	47.2	6.9	0.0	55.6	44.4	0.0	0.0	42.4	48.5	9.1	0.0	38.9	50.5	10.1	0.5

=最高値

分類	番号	評価項目	枚方校				京都校				梅田校				奈良校				ナンバ校				全合計			
			A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
教員研修・資質向上	31	教員の資質向上について	5.0	50.0	35.0	10.0	28.6	64.3	7.1	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	36.4	45.5	18.2	0.0	14.3	61.9	20.6	3.2
	32	校内研修	0.0	45.0	45.0	10.0	7.1	42.9	50.0	0.0	8.3	75.0	16.7	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	9.1	81.8	9.1	0.0	4.8	58.7	33.3	3.2
	33	初任者のサポート状況	15.0	65.0	20.0	0.0	21.4	50.0	28.6	0.0	41.7	50.0	8.3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	63.6	36.4	0.0	0.0	31.7	54.0	14.3	0.0
	34	校外研修	0.0	50.0	45.0	5.0	0.0	57.1	42.9	0.0	8.3	58.3	33.3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	9.1	54.5	36.4	0.0	3.2	58.7	36.5	1.6
	35	研修成果の共有状況	10.0	60.0	25.0	5.0	7.1	50.0	42.9	0.0	33.3	50.0	16.7	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	9.1	81.8	9.1	0.0	15.9	60.3	22.2	1.6
合計			6.0	54.0	34.0	6.0	12.9	52.9	34.3	0.0	18.3	61.7	20.0	0.0	13.3	80.0	6.7	0.0	25.5	60.0	14.5	0.0	14.0	58.7	25.4	1.9

=最高値

「長尾谷高等学校・学校評価」 年度別(22.21.20年度) A順位表 全校分

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価項目	番号	今年 向上 率	H 2 2 A + B	h 2 1 A + B	h 2 0 A + B	H 2 2 A	H 2 2 B	H 2 2 C + D	h 2 1 A	h 2 1 B	h 2 1 C + D	備考
学校運営	学習指導要領の対応状況	1	4.8	98.4	93.6	92.6	63.5	34.9	1.6	60.3	33.3	6.3	は1位
	教育計画について	2	1.6	100.0	98.4	95.5	69.8	30.2	0.0	73.0	25.4	1.6	は2位
	教員・教科間連携状況	3	-0.2	95.2	95.4	93.8	50.8	44.4	4.8	43.1	52.3	4.6	は3位
	教員と事務職員の連携状況	4	2.9	98.4	95.5	92.7	60.3	38.1	1.6	45.5	50.0	4.5	は本年度上
	会議の有効性	5	4.3	95.2	90.9	89.8	34.9	60.3	4.8	33.3	57.6	9.1	
	ホームページの活用状況	6	-1.7	96.8	98.5	95.7	61.9	34.9	3.2	68.2	30.3	1.5	
	学校見学・説明会実施状況	7	-2.0	98.4	100		74.6	23.8	1.6	71.2	28.8	0.0	
	役割分担について	8	-0.3	93.6	93.9	76.0	33.3	60.3	6.3	42.4	51.5	6.0	
	危機管理対応状況	9	5.4	85.7	80.3	62.3	14.3	71.4	14.3	18.2	62.1	19.7	
	地域交流について	10	-12.6	57.1	69.7	59.4	9.5	47.6	42.9	25.8	43.9	30.3	は30%以上
	平均値		0.3	91.9	91.6	84.2	47.3	44.6	8.1	48.1	43.5	8.4	
教育内容・ 教育の課題	情報能力育成	11	-14.7	76.2	90.9	92.6	9.5	66.7	23.8	22.7	68.2	9.1	
	情報モラル指導	12	-0.6	85.7	86.3	63.2	15.9	69.8	14.3	22.7	63.6	13.6	
	研究体制	13	11.2	79.4	68.2	67.7	11.1	68.3	20.6	9.1	59.1	31.8	
	教育体制及び重点目標	14	1.4	95.3	93.9		17.5	77.8	4.8	24.2	69.7	6.1	
		15	-0.2	95.2	95.4		34.9	60.3	4.8	34.8	60.6	4.5	
		16	3.8	84.1	80.3		14.3	69.8	15.9	19.7	60.6	19.7	
		17	5.8	95.2	89.4		31.7	63.5	4.8	37.9	51.5	10.6	
	環境問題意識向上	18	14.4	84.1	69.7	59.7	19.0	65.1	15.9	21.2	48.5	27.3	
	実践的態度の育成	19	14.5	73.0	58.5	56.5	15.9	57.1	27.0	12.3	46.2	32.3	
	読書推進	20	1.1	57.1	56.0	63.2	11.1	46.0	42.9	12.1	43.9	43.9	は30%以上
	部活動	21	-2.5	77.8	80.3	75.0	30.2	47.6	22.2	37.9	42.4	19.7	
	ボランティア	22	6.0	30.2	24.2	22.4	4.8	25.4	69.8	4.5	19.7	75.7	は30%以上
	学校行事	23	-1.6	95.3	96.9	95.6	65.1	30.2	4.8	63.6	33.3	3.0	
	スポーツ・芸術文化	24	-1.8	92.1	93.9	83.6	39.7	52.4	7.9	42.4	51.5	6.0	
	平均値		2.7	80.1	77.4	68.0	22.9	57.1	20.0	26.1	51.3	21.7	
生徒指導・ 支援	指導方針の一貫性	25	1.6	100.0	98.4	100.0	66.7	33.3	0.0	63.6	34.8	1.5	
	生活指導について	26	-1.9	93.6	95.5	88.2	49.2	44.4	6.3	48.5	47.0	4.5	
	家庭との連携状況	27	-0.4	90.5	90.9	82.4	36.5	54.0	9.5	33.3	57.6	9.1	
	学習指導について	28	-0.2	96.8	97.0	92.5	39.7	57.1	3.2	47.0	50.0	3.0	
	カウンセリング体制	29	12.8	63.5	50.7	49.3	11.1	52.4	36.5	6.3	44.4	49.2	は30%以上
	進路指導について	30	-0.1	92.1	92.2	89.6	30.2	61.9	7.9	34.4	57.8	7.8	
	平均値		1.9	89.4	87.5	83.7	38.9	50.5	10.6	38.9	48.6	12.5	
教員 向上 研修・ 資質	教員の資質向上について	31	27.0	76.2	49.2	61.8	14.3	61.9	23.8	9.2	40.0	50.8	
	校内研修	32	-1.6	63.5	65.1	58.3	4.8	58.7	36.5	10.6	54.5	34.8	は30%以上
	初任者のサポート状況	33	2.4	85.7	83.3	76.1	31.7	54.0	14.3	30.3	53.0	16.7	
	校外研修	34	4.3	61.9	57.6	61.2	3.2	58.7	38.1	6.1	51.5	42.4	は30%以上
	研修成果の共有状況	35	11.0	76.2	65.2	73.1	15.9	60.3	23.8	9.1	56.1	34.8	
	平均値		8.6	72.7	64.1	66.1	14.0	58.7	27.3	13.1	51.0	35.9	
備考	全体平均値		2.7	83.9	81.2	75.6	31.3	52.6	16.0	32.6	48.6	18.5	

「学校評価集計」 年度別 (22.21.20年度) B比較表

長尾谷高等学校 全校

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価項目	番号	H 2 2 A +	今年 向上 率	h 2 1 A +	h 2 0 A +	H 2 2 A	H 2 2 B	H 2 2 C +	h 2 1 A	h 2 1 B	h 2 1 C +	備考
			B	B	B	D	A	B	D				
学校運営	学習指導要領の対応状況	1	98.4	4.8	93.6	92.6	63.5	34.9	1.6	60.3	33.3	6.3	は85%以上
	教育計画について	2	100.0	1.6	98.4	95.5	69.8	30.2	0.0	73.0	25.4	1.6	は今年増加
	教員・教科間連携状況	3	95.2	-0.2	95.4	93.8	50.8	44.4	4.8	43.1	52.3	4.6	は今年減少
	教員と事務職員の連携状況	4	98.4	2.9	95.5	92.7	60.3	38.1	1.6	45.5	50.0	4.5	
	会議の有効性	5	95.2	4.3	90.9	89.8	34.9	60.3	4.8	33.3	57.6	9.1	
	ホームページの活用状況	6	96.8	-1.7	98.5	95.7	61.9	34.9	3.2	68.2	30.3	1.5	
	学校見学、説明会実施状況	7	98.4	-2.0	100		74.6	23.8	1.6	71.2	28.8	0.0	
	役割分担について	8	93.6	-0.3	93.9	76.0	33.3	60.3	6.3	42.4	51.5	6.0	
	危機管理対応状況	9	85.7	5.4	80.3	62.3	14.3	71.4	14.3	18.2	62.1	19.7	
	地域交流について	10	57.1	-12.6	69.7	59.4	9.5	47.6	42.9	25.8	43.9	30.3	は40%以上
	平均値		91.9	0.3	91.6	84.2	47.3	44.6	8.1	48.1	43.5	8.4	
教育内容・教育の課題	情報能力育成	11	76.2	-14.7	90.9	92.6	9.5	66.7	23.8	22.7	68.2	9.1	
	情報モラル指導	12	85.7	-0.6	86.3	63.2	15.9	69.8	14.3	22.7	63.6	13.6	
	研究体制	13	79.4	11.2	68.2	67.7	11.1	68.3	20.6	9.1	59.1	31.8	
	教育体制及び重点目標	14	95.3	1.4	93.9		17.5	77.8	4.8	24.2	69.7	6.1	
		15	95.2	-0.2	95.4		34.9	60.3	4.8	34.8	60.6	4.5	
		16	84.1	3.8	80.3		14.3	69.8	15.9	19.7	60.6	19.7	
		17	95.2	5.8	89.4		31.7	63.5	4.8	37.9	51.5	10.6	
	環境問題意識向上	18	84.1	14.4	69.7	59.7	19.0	65.1	15.9	21.2	48.5	27.3	
	実践的態度の育成	19	73.0	14.5	58.5	56.5	15.9	57.1	27.0	12.3	46.2	32.3	
	読書推進	20	57.1	1.1	56.0	63.2	11.1	46.0	42.9	12.1	43.9	43.9	
	部活動	21	77.8	-2.5	80.3	75.0	30.2	47.6	22.2	37.9	42.4	19.7	
	ボランティア	22	30.2	6.0	24.2	22.4	4.8	25.4	69.8	4.5	19.7	75.7	
	学校行事	23	95.3	-1.6	96.9	95.6	65.1	30.2	4.8	63.6	33.3	3.0	
	スポーツ・芸術文化	24	92.1	-1.8	93.9	83.6	39.7	52.4	7.9	42.4	51.5	6.0	
	平均値		80.1	2.7	77.4	68.0	22.9	57.1	20.0	26.1	51.3	21.7	
生徒指導・支援	指導方針の一貫性	25	100.0	1.6	98.4	100.0	66.7	33.3	0.0	63.6	34.8	1.5	
	生活指導について	26	93.6	-1.9	95.5	88.2	49.2	44.4	6.3	48.5	47.0	4.5	
	家庭との連携状況	27	90.5	-0.4	90.9	82.4	36.5	54.0	9.5	33.3	57.6	9.1	
	学習指導について	28	96.8	-0.2	97.0	92.5	39.7	57.1	3.2	47.0	50.0	3.0	
	カウンセリング体制	29	63.5	12.8	50.7	49.3	11.1	52.4	36.5	6.3	44.4	49.2	
	進路指導について	30	92.1	-0.1	92.2	89.6	30.2	61.9	7.9	34.4	57.8	7.8	
	平均値		89.4	1.9	87.5	83.7	38.9	50.5	10.6	38.9	48.6	12.5	
教員研修・資質向上	教員の資質向上について	31	76.2	27.0	49.2	61.8	14.3	61.9	23.8	9.2	40.0	50.8	
	校内研修	32	63.5	-1.6	65.1	58.3	4.8	58.7	36.5	10.6	54.5	34.8	
	初任者のサポート状況	33	85.7	2.4	83.3	76.1	31.7	54.0	14.3	30.3	53.0	16.7	
	校外研修	34	61.9	4.3	57.6	61.2	3.2	58.7	38.1	6.1	51.5	42.4	
	研修成果の共有状況	35	76.2	11.0	65.2	73.1	15.9	60.3	23.8	9.1	56.1	34.8	
	平均値		72.7	8.6	64.1	66.1	14.0	58.7	27.3	13.1	51.0	35.9	
備考	全体平均値		83.9	2.7	81.2	75.6	31.3	52.6	16.0	32.6	48.6	18.5	